

RISO REPORT 2009

RISO

平成21年3月期

報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日

株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。ここに平成21年3月期報告書をお届けするにあたりご挨拶申し上げます。

当社グループは、新規顧客の獲得を重要課題とした中期経営計画「Riso Vision 10」(P2参照)を策定しております。2年目にあたる平成21年3月期は、「次世代を見据えた商品開発の遂行」「インクジェット事業における収益基盤の構築」「孔版事業における収益の確保」「海外販売子会社の活性化と体質転換」を重点課題として取り組んでまいりました。

当期の経営成績につきましては、インクジェット事業では年度前半は売上が順調に増加したものの、年度後半にかけて世界的な景気低迷の影響を受けたことにより、通期の売上は計画していたほど伸びませんでした。また、孔版事業では、国内外で本体及び消耗品の販売が想定以上に減少したことにより売上は前年を大幅に下回りました。これらの結果、当社グループが期初に計画していた業績を大きく下回り、営業損失、当期純損失を計上するに至りました。

このような状況から、当期の期末配当につきましては、誠に遺憾ながら当初予想から1株当たり10円減配の30円とさせていただきます。

今後は早急な業績回復を目指し、孔版事業・インクジェット事業のより一層の販売強化に全力で邁進する所存です。株主の皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



平成21年6月

代表取締役社長
羽山 明

第三次中期経営計画 Riso Vision 10

当社グループでは、インクジェット事業・孔版事業において新規顧客の獲得を重要課題として取り組み、更なる成長を目指します。平成20年3月期から平成22年(2010年)3月期までの第三次中期経営計画は以下の通りです。

基本方針

1. **インクジェット事業におけるハード設置の更なる加速**
2. **孔版事業における新規顧客獲得**
3. **新たな柱となる事業の創出**
4. **事業環境変化を先取りした開発・技術・製造投資の実行**
5. **リーダー人材を創出する企業風土の醸成**
6. **CSR活動推進による、企業価値の向上**

平成22年3月期 重点課題

1. 高付加価値商品の販売による利益拡大
2. 生産効率向上と購買力強化による原価低減
3. 市場が求める高付加価値商品の開発企画を促進
4. 重点課題への経費の集中的投下、他項目は徹底削減

高収益体質の構築へ向け 抜本的なコスト見直しと販売力の強化を図る



代表取締役社長 羽山明

第三次中期経営計画「Riso Vision 10」が最終年度を迎えます。当社の活動状況やこれからの取り組みについて社長の羽山明がご説明いたします。

世界的な景気低迷と円高で初の赤字に

「Riso Vision 10」の2年目となる平成21年3月期は、年度前半、欧州で販売が伸び悩んだものの、インクジェット事業の伸長が全体を牽引しました。また、アジアでは孔版事業が堅調に推移し、米州も一昨年から行っていた米国子会社の再構築の成果が出始めて台数ベースで昨年を上回る販売実績を上げました。

しかしながら、年度後半は世界的な景気低迷によって日本・欧州・米州・アジア市場ともに販売は苦戦しました。また、急激な円高の影響も受けたことにより売上高は大幅な減収となりました。利益面でも当社グループの連結決算で初の営業損失を計上するに至りました。

オルフィス新シリーズを世界で拡販

平成22年3月期の業績は、世界的な景気低迷が続くと予想される中で、孔版事業の減収や為替の変動等の影響によって前期に比べ減収減益となり、営業損失がさらに拡大する見通しです。当社グループの業績を早期に回復させるために「Riso Vision 10」の最終年度である今期は、抜本的な改革によって企業体質を強化する一年ととらえ、4つの重点課題に取り組んでまいります。

一点目は、高付加価値商品の販売による利益拡大を図ることです。

本年2月、主力商品のオルフィスを5年ぶりにフルモデルチェンジした「Xシリーズ」を新発売しました。同シリーズは、従来モデルよりも省スペース・軽量化した上で、プリント速度の向上・ランニングコストのさらなる低減を実現しました。大量のカラードキュメントも短時間・低コストで出力できるという特長を持った商品です。国内では順調な売れ行きを示しており、今期は海外でも順次販売を展開していく予定です。

この「ORPHIS Xシリーズ」の発売を機に直販力の強化と代理店ルートの再構築に取り組み、新規顧客の獲得に注力し利益の拡大を図ってまいります。

リソグラフについては、同時2色印刷機を中心とした高付加価値商品の販売に注力していきます。孔版事業はここ数年伸び悩んでいるものの、まだまだ大きな潜

在需要が期待できる事業であると考えています。既存のお客様への販売はもとより、用途提案をしながら新規顧客を開拓し、設置台数の増加に努めます。

原価低減の考え方を根本から見直す

二点目は、生産効率向上と購買力強化による原価低減を図ることです。原価低減については、これまでもさまざまなコストダウンに取り組んできました。しかし、さらなる原価低減を推し進め市場の要求に応じていくためには、生産体制を根本から見直し徹底した効率化を図らなければなりません。海外へのシフトや内



世界最速のカラープリンター
「ORPHIS X9050」

製化の促進を早急に行うと考えています。また、原材料の調達についても、円高のメリットを生かして海外からの調達を拡大していきます。

顧客ニーズに応える商品開発を促進

三点目は、市場が求める高付加価値商品の開発企画を促進することです。当社は開発型・商品提案型の企業であり、開発投資は積極的に行ってまいりました。今後もオフィス用プリンター分野だけでなく、それ以外の分野においても顧客ニーズに迅速に応え、オリジナリティのある高付加価値商品の開発を積極的に行っていく考えです。

四点目は、経費の重点配分を進めることです。新商品開発を含め、業績向上の重点施策や海外子会社の業績改善など、重点課題に経営資源を集中投下し、その他の項目は徹底的に削減します。

経済危機をチャンスに

米国の金融不安に端を発した世界的な景気低迷は、多くの企業にとって業績伸長の逆風になりました。当社もその例外ではありません。

しかしながら私は、この経済危機は企業体質を強化する大きなチャンスになると考えています。事業環境が変化したことで、当社の「強み」や「弱み」がくっきりと浮き彫りになり、何ができていて何ができていな

かったか、何をやらなければいけないかがより明確になったと実感しています。外部要因の変化に負けない強固な高収益体質を構築していくためにも、4つの重点課題に取り組んでいきたいと考えています。

早期の業績回復に全力を尽くす

株主の皆様への利益配分につきましては、企業体質を強化しつつ業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針に、安定配当の継続と自己株式の取得に努めております。

この方針に基づき、当期は57万2千3百株の自己株式を取得し、昨年7月に発行済株式総数の約5%にあたる自己株式を消却しました。しかしながら配当金につきましては、初の赤字決算のやむなきに至りましたので、誠に遺憾ではございますが、一株当たり10円減配の30円とさせていただくことといたしました。

今後は収益の改善に努め、できる限り早期に配当金額を回復するよう全力を尽くす所存です。株主の皆様におかれましては、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

製品にこめるエコロジーマインド

当社は、製品の開発・設計から生産・販売、リサイクルまで、製品のライフサイクルの各段階でさまざまな環境への配慮を行っています。今回は、リソグラフにおける環境配慮への取り組みの一部をご紹介します。



eco

1

エコマーク認定商品

「リソグラフRZシリーズ」は、再資源化やエネルギー消費効率などの厳しい基準をクリアし、エコマークの認定を受けたデジタル印刷機です。また、グリーン購入法の特典調達品目の判断基準にも適合しています。



eco

3

大豆油を使用した専用インク

リソグラフのインクは植物性油脂の大豆油を利用したSOYインクです。大豆は石油由来の原料と違い再生可能な資源であり、成長過程でCO₂も吸収します。SOYインクは環境負荷の低いインクです。



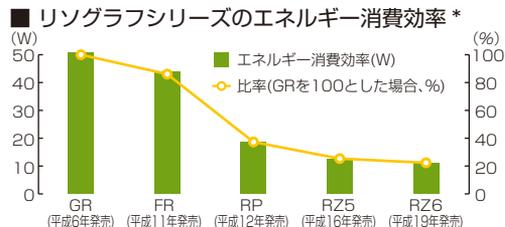
ソイシール商標の使用を認証されています。

eco

2

省エネルギー設計

リソグラフは一般の複写機とは仕組みが異なり、印刷に熱を利用しません。ウォームアップが不要なため電源を入れるとすぐに使用でき、待機時の電力もわずかです。高速で短時間に印刷ができるので、エネルギーを効率よく使います。平成6年当時のモデルに比べ、「リソグラフRZ6シリーズ」は約1/5のエネルギーで印刷できます。



*グリーン購入法のデジタル印刷機の判断基準に記載されているエネルギー消費効率の算定方法により算出しています。B4サイズ機。

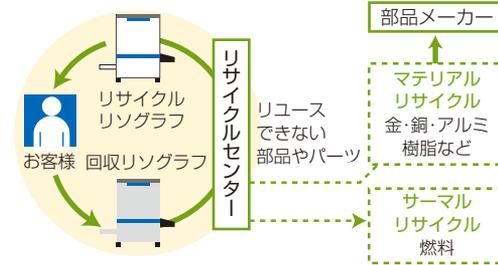
eco

4

回収・再資源化への取り組み

「リソグラフREシリーズ」は使用済みのリソグラフを回収し、リユース・リサイクルしたデジタル印刷機です。また、使用済みのインクボトルは回収し、再生プラスチックに加工してインクボトルの一部やハンガー、トレイなどに再生しています。

■ リソグラフのリサイクルシステム



次世代高速カラープリンター「ORPHIS Xシリーズ」新発売

平成21年2月、当社は次世代高速カラープリンター「ORPHIS Xシリーズ」を発売しました。同シリーズは、オフィスの特長である高い生産性と経済性をさらに追求した新モデルとして『ORPHIS X9050』と『ORPHIS X7250』の2機種をラインアップしています。

世界最速毎分150枚*1のスピードと

1枚2.05円*2の高い経済性

「ORPHIS Xシリーズ」は駆動系に新機構を採用し、『ORPHIS X9050』は世界最速毎分150枚*1のプリントスピードを実現、両面プリントスピードも向上しました。また、インクの使用効率を高め1枚2.05円*2のより経済的なランニングコストを可能にしています。

会議資料、チラシ、リーフレット、ダイレクトメール、研修マニュアル、名刺などを必要な量だけタイムリーにプリントしたいという、企業内の印刷ニーズに幅広く応えます。



世界最速のプリントスピードを実現
高速性に優れた
「ORPHIS X9050」

発売に先行し総合展示会開催

「ORPHIS Xシリーズ」初披露

平成20年11月～12月に東京・大阪・名古屋で総合展示会「RISO Printing Evolutions Fair」を開催。合計

5千名以上のお客様に会場いただきました。

それぞれの会場には、特設ステージを設け「ORPHIS Xシリーズ」の機能や特長を映像とナレーションを交えて紹介。各機種のコーナーでは、『ORPHIS X9050』と『ORPHIS X7250』を用途に合わせてご提案しました。ご来場の多くのお客様から、プリントスピード、ランニングコスト、印刷用途の幅広さやコンパクトで使いやすくなった点について高い評価をいただきました。

当社は、「ORPHIS Xシリーズ」の投入により、多枚数カラープリント市場のさらなる拡大を目指します。

*1 『ORPHIS X9050』の場合。A4片面横送り、標準設定連続プリント、フェイスダウン排紙トレイ使用時。平成21年2月現在販売の枚葉(カット紙)オフィス用カラープリンターにおいて世界最速。(自社調べ)

*2 A4片面、フルカラーCMYK各色5%、標準設定連続プリント、RISO XインクF使用時。用紙代別・税別。



東京・六本木アカデミーヒルズで開催した総合展示会「RISO Printing Evolutions Fair」の様子(平成20年11月)

オルフィスとウイングアーク社の帳票ソフトが連携。拡がるカラーソリューション

当社は平成20年11月、帳票ソフト製造販売のウイングアーク テクノロジーズ(株)のパートナー企業として、カラー帳票出力ソリューションの提供を開始しました。これにより、当社的高速カラープリンター『ORPHIS HC5500 ISモデル』は、ウイングアーク社の帳票ソフトと連携し、各種帳票データの出力対応機種として利用が可能となりました。

請求書や見積書、給与明細、社内伝票などの基幹系帳票プリント市場では、より見やすく、分かりやすいカラー帳票へのニーズが高まっています。オルフィスは、カラー帳票を高速かつ低ランニングコストで提供し、多枚数プリントのカラーソリューション用途を拡大します。

このソリューションは、平成20年11～12月に各地で実施した総合展示会「RISO Printing Evolutions Fair」や両社共催のセミナー等で、お客様にご紹介しました。



バリエابلプリントで帳票出力
【ORPHIS HC5500 ISモデル】

沖縄に総合ユーザーサポートセンターを開設

平成21年1月、当社は沖縄県那覇市にユーザーサポート業務を総合的に行う「RISOコンタクトセンター」を設立し、2月より運営をスタートしました。

このセンターは、お客様からのオルフィスやリソグラフに関する技術的なお問い合わせ、インクやマスターをはじめとした消耗品の受注などに対応する新たな窓口を担っています。全国各地に分散していた拠点を集約し、ユーザーサポート業務を一元化することで、効率の向上を図りました。高いセキュリティ機能を備えた4階建ての施設で、約60名の専属スタッフが対応しています。

当社は、ユーザーの皆様から寄せられたご意見やご要望を積極的に活用し、お客様に安心して製品をお使いただきたいと考えています。これまで以上に高品質で安定的なサポートの提供を目指し、さらなる顧客満足度の向上に力を注いでいきます。



沖縄県那覇市に設立した
「RISOコンタクトセンター」

経営の実績—当期の概況

当社グループは、第三次中期経営計画の2年目に当たる当期、「次世代を見据えた商品開発の遂行」「インクジェット事業における収益基盤の構築」「孔版事業における収益の確保」「海外販売子会社の活性化と体質転換」の4項目を重点課題として運営してまいりました。

「次世代を見据えた商品開発の遂行」については、高速カラープリンターの新製品「ORPHIS Xシリーズ」を開発し、平成21年2月に国内で発売しました。「インクジェット事業における収益基盤の構築」については、国内及び米国で販売が伸びたものの、欧州の不調が影響し、全体では計画ほど販売を伸ばすことができませんでした。「孔版事業における収益の確保」については、アジアでは販売は堅調に推移したものの、先進国での想定以上の販売減少により大幅減収となりました。「海外販売子会社の活性化と体質転換」については、米国ではインクジェット事業に注力し収益の改善を目指し、年度前半は販売面で成果を上げたものの年度後半は低調に推移、欧州では現地統括会社の位置付けと陣容の抜本的な見直しを実施しました。

以上のような活動の結果、売上高は837億7千4百万円(前期比9.6%減)となりました。利益面では、為替の影響に加え孔版事業の売上総利益が減少したことなどにより、営業損失、経常損失を計上するに至りました。営業損失は9億1千3百万円(前期は53億9千7百万円の営業利益)、経常損失は6億9

千5百万円(前期は47億9百万円の経常利益)となりました。また、特別利益として保険返戻金がありましたが、特別損失として退職給付制度改定損と投資有価証券評価損を計上したことなどにより、当期純損失は6億4千1百万円(前期は16億5千7百万円の当期純利益)となりました。

次期の見通し

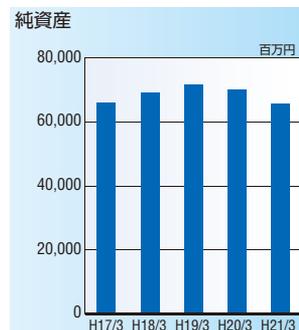
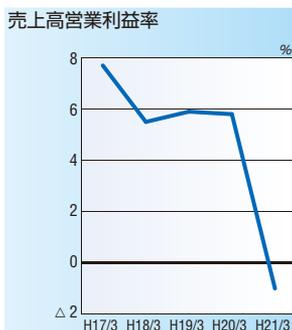
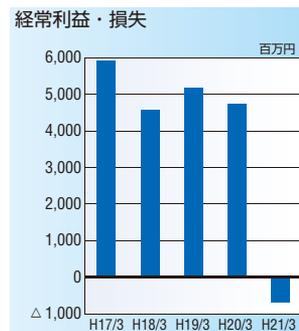
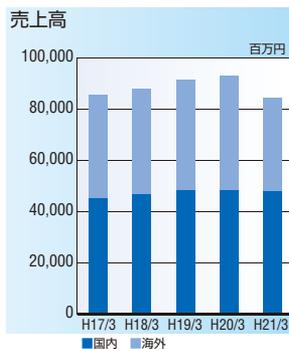
今後の見通しにつきましては、世界的な経済の停滞が続くことが予想され、回復基調に向かうまでには相当な時間を要することも想定されます。

このような経済環境の中で当社グループは、インクジェット事業において高速カラープリンターのラインアップを拡充し新市場開拓に努めるとともに、海外先進国市場にも新製品を積極的に展開し収益拡大を図る所存です。孔版事業においては減収傾向が続いておりますが、高付加価値商品の販売強化によって収益力の向上に努め、事業体質の強化を図ってまいります。同時に生産効率の向上と購買力強化による原価低減、経費効率の向上をグループ全体で推し進め、高収益体質の構築に取り組んでまいります。

通期業績見通しは、売上高は780億円、営業損失は24億1千万円、経常損失は20億4千万円、当期純損失は22億6千万円となる見込みです。

なお、通期業績見通しにおける為替レートは、米ドル88円、ユーロ117円を前提としています。

業績ハイライト(連結)



		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	平成20年3月期	平成21年3月期
売上高	(百万円)	85,161	87,601	90,863	92,621	83,774
国内	(百万円)	44,933	46,431	48,013	48,247	47,797
海外	(百万円)	40,228	41,170	42,849	44,373	35,976
営業利益・損失	(百万円)	6,574	4,812	5,379	5,397	△ 913
経常利益・損失	(百万円)	5,883	4,552	5,139	4,709	△ 695
当期純利益・損失	(百万円)	3,280	2,154	2,977	1,657	△ 641
売上高営業利益率	(%)	7.7	5.5	5.9	5.8	△ 1.1
純資産	(百万円)	65,834	68,978	71,354	69,796	65,484

(注) 平成18年3月期以前の数値につきましては、従来の「株主資本」を「純資産」として表記しております。

貸借対照表

(資産の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成20年3月31日	平成21年3月31日
流動資産	70,381	54,797
現金及び預金	24,913	20,583
受取手形及び売掛金	16,147	13,900
有価証券	12,273	3,281
たな卸資産	12,977	14,029
その他	4,379	3,302
貸倒引当金	△ 311	△ 298
固定資産	44,413	42,647
有形固定資産	33,014	32,492
建物及び構築物	7,676	7,344
機械装置及び運搬具	1,655	1,299
土地	18,053	18,053
その他	5,628	5,795
無形固定資産	2,309	2,307
ソフトウェア	1,807	1,971
その他	501	336
投資その他の資産	9,089	7,846
投資有価証券	2,279	1,718
その他	7,075	6,373
貸倒引当金	△ 265	△ 245
資産合計	114,795	97,444

(注) 当期の有形固定資産の減価償却累計額 41,114 百万円

POINT 1

現金及び預金・有価証券

現金及び有価証券の一部を転換社債の償還資金として充当しました。

POINT 2

一年内償還予定の転換社債

平成21年3月31日に「第2回無担保転換社債」を償還しました。

(負債の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成20年3月31日	平成21年3月31日
流動負債	41,472	26,972
支払手形及び買掛金	14,205	14,311
短期借入金	5,389	5,368
一年内返済予定の長期借入金	9	9
一年内償還予定の転換社債	13,286	—
その他	8,579	7,283
固定負債	3,526	4,988
長期借入金	98	83
その他	3,425	4,905
負債合計	44,998	31,960

(純資産の部)

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	平成20年3月31日	平成21年3月31日
株主資本	68,815	66,325
資本金	14,114	14,114
資本剰余金	14,779	14,779
利益剰余金	43,131	38,816
自己株式	△ 3,210	△ 1,386
評価・換算差額等	815	△ 1,020
その他有価証券評価差額金	831	304
為替換算調整勘定	△ 16	△ 1,324
少数株主持分	165	179
純資産合計	69,796	65,484
負債純資産合計	114,795	97,444

POINT 3

自己株式

自己株式141万株の消却を実施しました。また、当期は57万2千3百株(6億6千5百万円)の自己株式を取得しました。

■ 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前期	当期
	平成19年4月1日～ 平成20年3月31日	平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
売上高	92,621	83,774
売上原価	45,624	43,885
売上総利益	46,996	39,888
販売費及び一般管理費	41,598	40,802
営業利益・損失	5,397	△ 913
営業外収益	950	1,105
営業外費用	1,638	887
経常利益・損失	4,709	△ 695
特別利益	—	1,820
特別損失	339	421
税金等調整前当期純利益	4,370	704
法人税、住民税及び事業税	1,889	296
法人税等調整額	810	1,022
少数株主利益	12	26
当期純利益・損失	1,657	△ 641

POINT 4

売上高

前期比88億4千6百万円の減収となりました。為替影響は約60億円のマイナスとなりました。

POINT 5

営業損失

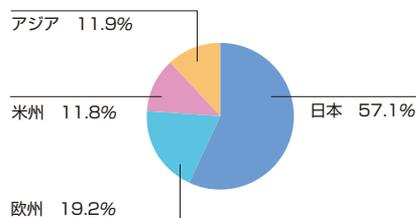
孔版事業の売上減少と為替影響により売上総利益が減少したため、前期比63億1千万円の減益となりました。

■ キャッシュ・フロー計算書

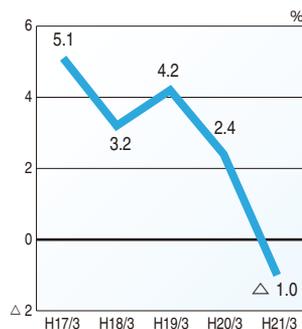
(単位：百万円)

科 目	前期	当期
	平成19年4月1日～ 平成20年3月31日	平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,491	2,084
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,489	6,174
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,814	△ 14,733
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 427	△ 707
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,239	△ 7,181
現金及び現金同等物の期首残高	32,667	30,427
現金及び現金同等物の期末残高	30,427	23,246

地域別売上高比率



自己資本当期純利益率



(注)H18/3以前の数値につきましては、従来の「株主資本当期純利益率」を「自己資本当期純利益率」として、表記しております。

国内

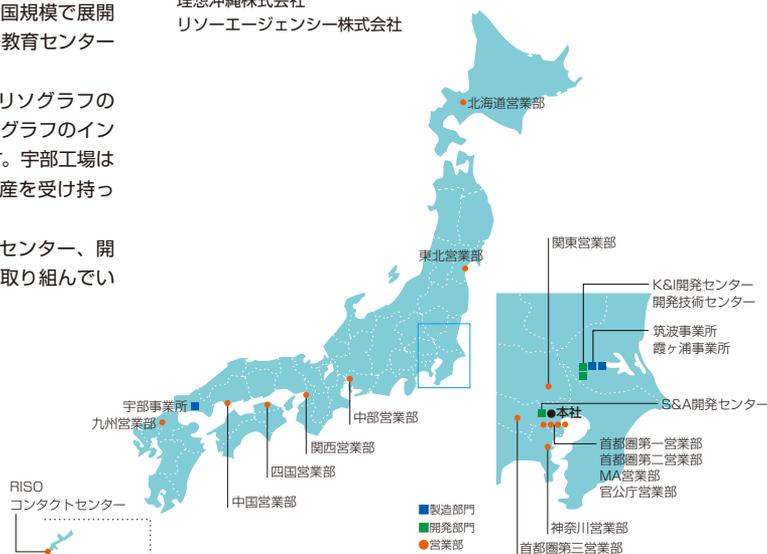
当社の販売ネットワークは14営業部48支店及び販売子会社を中心に構成されています。また、当社製品を安心してご利用いただくために、技術サポートや消耗品の供給体制も全国規模で展開しております。営業・技術スタッフの育成は、リソー教育センターを中心に全国で行われています。

国内の製造拠点は3カ所あります。筑波工場はリソグラフィのハードウェアを生産しています。霞ヶ浦工場はリソグラフィのインク・マスターとオルフィスのインクを生産しています。宇部工場はリソグラフィのインク・マスターのうち量産品種の生産を受け持っています。

当社の開発部門はS&A開発センターとK&I開発センター、開発技術センターがあり、次代のRISO製品の開発に取り組んでいます。

◆国内の主な子会社

- 株式会社理想ベック
- 理想沖繩株式会社
- リソーエージェンシー株式会社



本社



K&I開発センター



開発技術センター



RISOコンタクトセンター



霞ヶ浦事業所



筑波事業所



宇部事業所

海外

当社は17の海外子会社を中心に、オルフィス、リソグラフなどの販売や、技術サポートや消耗品の供給を行っています。また、中国・広東省の珠海工場では、リソグラフハードウェアの生産を行っています。RISOグループ3,000名以上のスタッフが、さまざまな国の人たちとのコミュニケーションを大切に、多くのお客様をサポートしています。



●海外の主な子会社

RISO, INC.
 RISO CANADA, INC.
 RISO DE MEXICO, S.A. de C.V.
 RISO (U.K.) LTD.
 RISO (Deutschland) GmbH
 RISO POLAND Sp. Zo.o.
 RISO FRANCE S.A.
 RISO IBERICA, S.A.
 RISOGRAPH ITALIA, S.p.A.
 RISO AFRICA (PTY) LTD.
 RISO HONG KONG LTD.
 RISO (Thailand) LTD.
 理想 (上海) 國際貿易有限公司
 珠海理想科学工業有限公司
 RISO KOREA LTD.
 理想工業 (香港) 有限公司
 RISO INDIA PRIVATE LIMITED



RISO, INC.
(アメリカ・ボストン)



RISO (Deutschland) GmbH
(ドイツ・ハンブルグ)



RISO (Thailand) LTD.
(タイ・バンコク)



RISO FRANCE S.A.
(フランス・リヨン)



珠海理想科学工業有限公司
 珠海工場 (中国・広東省)

シンプル操作で2色プリントができるデジタル印刷機 リソグラフMZシリーズ

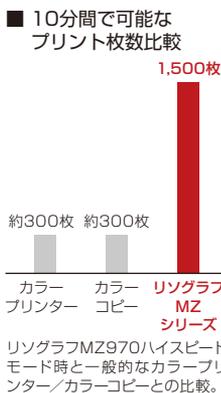
「リソグラフMZシリーズ」は、リソグラフならではのスピードと低ランニングコストで簡単・手軽に2色プリントができます。また、ネットワーク環境での使いやすい装備も万全です。高精細でよりインパクトのある2色プリントができる「リソグラフMZシリーズ」は、多くの方々のお役に立ちます。



特長 1 毎分最高150枚、 高速2色プリント。

2色プリントが毎分最高150枚のスピードで印刷、1,000枚の出力が約7分で終了します。原稿の読み取りから出力までも約57秒*1とスピーディー。プリント開始までの待ち時間が少なく、効率よく作業をこなします。

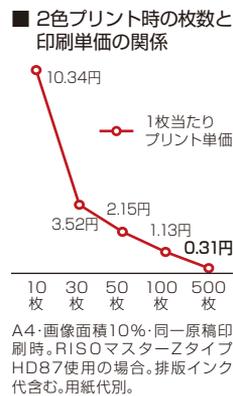
*1 A4縦等倍の場合。単色プリントの場合は約24秒。



特長 2 大量プリントに頼もしい、 低ランニングコスト。

リソグラフは、印刷の元となる版をつかってインクで印刷する方式で、一原稿を多数枚印刷する場合、印刷枚数が増えるほど単価が下がります。例えば、1回当たり1,000枚を月に10回プリントした場合、カラーレーザープリンターでは約100,000円、リソグラフMZ970では約2,100円と約1/50の費用でプリントができ、大幅なコスト削減につながります*2。

*2 リソグラフ (A4・画像面積10%・同一原稿印刷時。排版インク代含む)とカラーレーザーカラープリンター (A4・モノクロ使用時。プリント単価約5円)との比較。プリント単価は、メーカー・機種及び契約方法などにより異なります。用紙代別。



特長 3 2色にすれば、 伝えたいこと、もっと伝わる。

「リソグラフMZシリーズ」のメリットは、インパクトのある2色プリントです。モノクロより目立つことはもちろん、手軽でアピール度の高い訴求力を持った2色プリントは、さまざまな業種のプリントワークにお役に立ちます。

■ 見る人の目を引く、2色プリントの訴求効果

不動産業界では
関心度UP



官公庁・公共団体では
注目度UP



学校・教育関係では
伝達力UP



サービス業では
アピール力UP



株券電子化後の株式に関する手続きについて

Q 配当金の受取方法は変わりますか？

A 株券電子化の実施により、従来のゆうちょ銀行窓口で直接受取する方法または配当金振込口座のご指定方法に加えて、以下の3つの方法が可能になりました。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めします。詳しくはお取引の証券会社等にお問い合わせください。

- 1) 複数の証券会社等の口座で保有している銘柄ごとの株式数に応じて、各々の銘柄ごとの株式数に応じた配当金をそれぞれの証券会社口座で受取る方法。
- 2) あらかじめ登録した一つの銀行口座(ゆうちょ銀行を除く)で保有している全銘柄の配当金を受取る方法。
- 3) 銘柄ごとに振込指定銀行口座(ゆうちょ銀行も可能)を指定して受取る方法。

Q 単元未満株式の買取・買増請求に変更はありますか？

A 平成21年1月5日受付分から、これまで株主様にご負担いただいております単元未満株式の買取・買増請求にかかる手数料を「無料」といたしました。単元未満株式をご所有の株主様におかれましては、買取・買増請求のご利用をご検討ください。

Q 各種手続きの申出はどのようにになりますか？

A 上場会社の株券電子化の実施に伴い、株主様の権利は電子的に証券会社等の金融機関の口座で管理されることとなり、各種手続きのお申出先につきましても以下のとおり変更となりました。

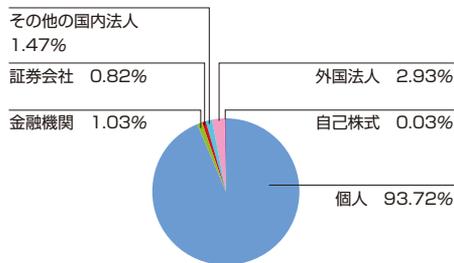
- 1) **株券電子化後の未払配当金の支払いのお申出先**
これまでどおり、株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- 2) **株券電子化後の住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申出先**
 - ① 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられている株主様：お取引の証券会社など
 - ② 証券保管振替機構(ほふり)に株券を預けられていない株主様：下記口座管理機関

記

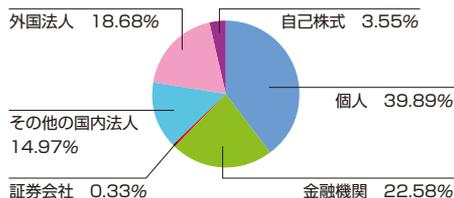
- 口座管理機関 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 同ご照会先 〒168-0063
(郵便物送付先・代行部電話照会先)
中央三井信託銀行株式会社
証券代行部
電話 0120-78-2031
(フリーダイヤル)
- 同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社
本店及び全国各支店
日本証券代行株式会社
本店及び全国各支店

■発行可能株式総数	67,840,000株 (前期末比 増減なし)
■発行済株式の総数	26,643,166株 (前期末比1,410,000株減少)
■株主数	3,406名 (前期末比102名増加)

■株主数比率



■株式数比率



■自己株式の取得・消却について

当期中に取得・消却した自己株式は下記のとおりです。

取得した株式数	572,300株
取得価格	665百万円
消却した株式数	1,410,000株
	(消却前発行済株式の総数に対する割合 5.03%)
消却実施日	平成20年7月1日

■大株主一覧 (上位10人)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社理想社	2,470	9.27
財団法人理想教育財団	1,330	4.99
羽山 昇	1,267	4.75
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウントアメリカンクライアント	1,153	4.32
理想科学工業株式会社	946	3.55
理想科学工業従業員持株会	859	3.22
羽山 明	856	3.21
ザシルチェスターインターナショナルインベスターズ インターナショナルバリュー エクイティートラスト	826	3.10
みずほ信託退職給付信託東京民銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	783	2.94
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユースタックスエグゼンテッドベンションファンズ	770	2.89

(注)1. みずほ信託退職給付信託東京民銀行口再信託受託者資産管理サービス信託の持株数783千株は、株式会社東京民銀行が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものです。

2. シルチェスター インターナショナル インベスターズ リミテッドから、平成20年1月17日付で大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付を受けましたが、当社として当期末日現在における所有株式数の確認ができないため上記大株主一覧には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりです。

株主名	持株数(千株)
シルチェスターインターナショナルインベスターズリミテッド	2,812

3. アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社から、平成19年5月18日付で大量保有報告書の写しの送付を受けましたが、当社として当期末日現在における所有株式数の確認ができないため上記大株主一覧には含めておりません。なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりです。

株主名	持株数(千株)
アクサ・ローゼンバーク証券投信投資顧問株式会社	1,412

- 商号 理想科学工業株式会社
- 本社 〒108-8385
東京都港区芝五丁目34番7号
- 創業 昭和21年(1946年)9月2日
- 会社設立 昭和30年(1955年)1月25日
- 資本金 14,114,985,384円
(平成21年3月31日現在)
- 従業員数 1,681名
(平成21年3月31日現在)
- 連結子会社 24社(国内5社 海外19社)
(平成21年3月31日現在)
- 役員

代表取締役社長	羽山 明
常務取締役	高橋 靖宏
常務取締役	国谷多可史
取締役	阿部 和男
取締役	五十嵐秀隆
取締役	遠藤喜八郎
取締役	藤岡 秀則
取締役	石橋 英悟
取締役	岡田 良隆
取締役	高橋 康信
常勤監査役	谷口 隆
常勤監査役	山本 邦明
監査役	鈴木 龍夫*
監査役	飯塚 良成*

(平成21年6月24日現在)

(注) * 印は会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

◆今後の見通しに関する注意事項

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から 翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当受領株主確定日	期末配当 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先) (電話照会先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 証券代行部 (〒168-0063) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載URL	http://www.riso.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による 公告が出来ない場合は、日本経済新聞に掲載します。
理想科学株主様窓口	理想科学工業株式会社 総務部 〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル 電話 03 (5441) 6611

■ お知らせ

配当金の「支払通知書」を年1回送付いたします。

租税特別措置法の平成20年改正（平成20年4月30日法律第23号）により、平成21年1月以降にお支払いする配当金について、株主様あてに配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが義務づけられました。

配当金領収証にてお受取りの株主様は、年末または翌年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。口座振込を指定されている株主様は配当金支払いの際送付している「配当金計算書」が「支払通知書」となります。なお、両書類は確定申告を行う際その添付資料としてご使用いただくことができます。

株券電子化により、特殊文字のお名前・ご住所の表記が変わりました。

株券電子化実施に伴い、これまで印字が可能であった外字（JIS規格外）の特殊な文字のお名前・ご住所に関しては、株式データを管理する証券保管振替機構（ほふり）のシステムでは印字ができなくなりました。これにより、株主名簿や郵便物等においてJIS規格による表記もしくはカタカナ表記となりましたことをご了解ください。（例：齋→齊 邊→辺）

株主様のお名前・ご住所として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

インターネットで当社に関する情報がご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.riso.co.jp/>



本報告書は、環境にやさしい大豆インキと、FSC認証紙を使用しております。

理想科学工業株式会社

本社／〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル

証券コード 6413